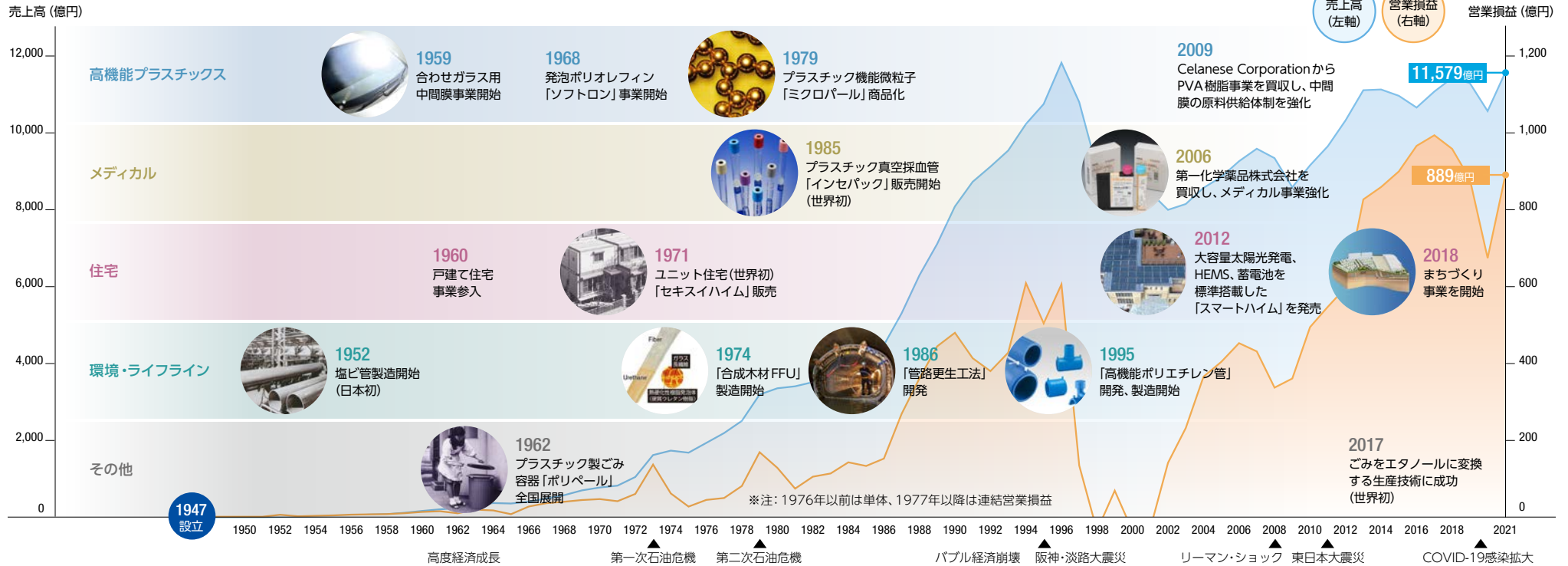


積水化学グループの軌跡

積水化学グループは野口遵氏が設立した日本窒素肥料を祖とし、その当時、夢の新素材であったプラスチックの総合的事業化を目指す7人の若手によって、1947年に設立されました。以来、プラスチックに関連する技術・製品を中心に、3S精神 (Service, Speed, Superiority) で新事業・フロンティア開拓に果敢に挑戦して、新時代を切り開いてきました。



1947年 ~ 創業期

プラスチックのパイオニアとして加工業を確立

国産射出成型機を武器に日本初のプラスチック加工事業に挑戦。日用品、テープ・フィルム、塩ビ管、ポリパールなどのプラスチック製品で、暮らしに新しい変化をもたらし、日本の戦後復興に貢献。1960年には住宅分野に参入後、分社化(現:積水ハウス株式会社)。1963年には製造業で日本初となる米国進出を果たすなど積極経営を展開。

1966年 ~ 育成期

経営体質整備と次世代事業の育成

高度経済成長期が終焉を迎える中、構造改革とともに従業員・取引先尊重やプラスチックを通じて社会に貢献するという基本思想で経営体質を改善。次なる成長事業として、住宅をユニット化して工場生産する「セクスイハイム」、メディカル事業などをスタート。全社TQC*活動推進で1979年に品質管理の最高栄誉賞デミング賞を受賞。
※ TQC: Total Quality Control

1980年 ~ 拡大期

高機能製品の登場と住宅事業の伸長

1970年代後半から取り組んできた次世代製品の事業化が進み、社会インフラ関連や住宅、メディカル分野などが成長。顧客ニーズ対応力を高める組織改正を実施。高度化するユーザーニーズと社会課題に応える新素材・技術・製品を市場に投入。住宅はアフターサービスを充実化。住宅事業が大きく伸長し、業績を牽引。1997年に太陽光発電搭載住宅をスタート。

1999年 ~ 再生期

3カンパニー制へ移行、CSR経営の導入と推進

バブル経済崩壊後の経営危機脱却のため、7事業本部を3カンパニーへ再編し、事業の選択と集中、グローバル化を推進。同時にエコノミーとエコロジーを両立させ持続的な成長を目指す「環境」、CS(顧客満足)向上と品質強化を一体化した「CS品質」、従業員の持ち味を活かすためその成長を支援する「人材」の3つを「際立ち」としたCSR経営を推進。

2008年以降 変革期

積極的な戦略投資、CSR経営はESG経営へと進化

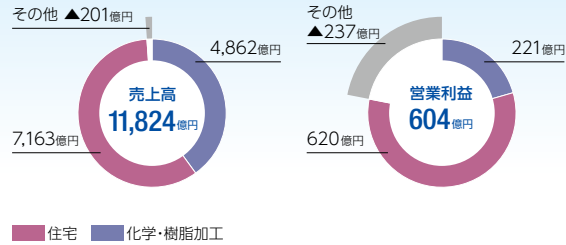
戦略分野を明確化した投資戦略と体質強化で、規模拡大とともに収益性を向上。高機能品拡大により、高機能プラスチックが大きく伸長。2020年に新たな長期ビジョンを策定。事業と一体となったCSR経営は、環境や社会の課題をより戦略的に捉えて、社会と企業のサステナビリティ実現を目指すESG経営へと進化。

積水化学グループの軌跡

ポートフォリオ変革

7事業本部制

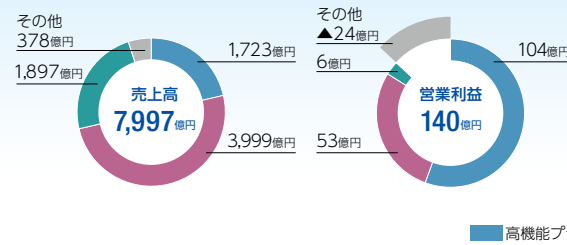
1996年度



過去最高売上を住宅事業が牽引

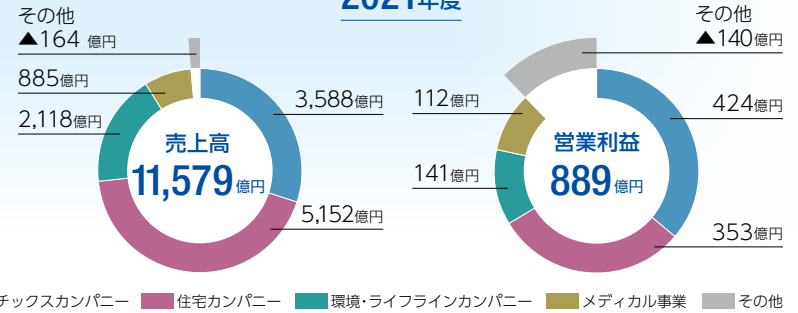
カンパニー制導入後

2002年度



社会・事業変化を先んじて見極め、選択と集中。成長するための事業ポートフォリオ変革(先取り変革)を実施

2021年度



住宅事業
化学・樹脂加工事業

バブル経済崩壊後の経営危機
脱却のための変革を開始
2001年3月
カンパニー制を導入

カンパニーごとの事業領域
(戦略分野)

住宅 ▶ 住宅
環境・ライフライン ▶ 水インフラ
高機能プラスチック ▶ AT/IT/MD^{*1}

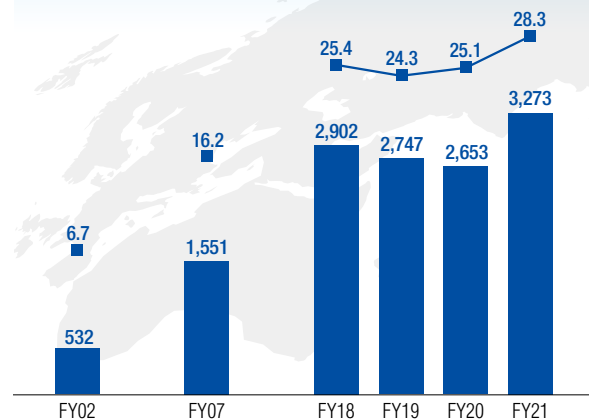
▶ 住宅/ストック(リフォーム・不動産)/まちづくり等
▶ 配管・インフラ/建築・住環境/機能材料
▶ エレクトロニクス/モビリティ/住インフラ
▶ メディカル事業^{*2}

※1 AT(車輛材料)分野、IT(電子材料)分野、MD(メディカル)分野 ※2 メディカル事業は2019年度に新たなカンパニー候補として成長を加速させるため、高機能プラスチックカンパニーから分離

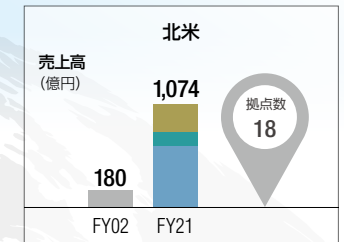
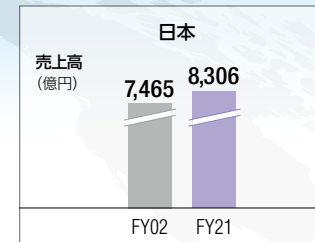
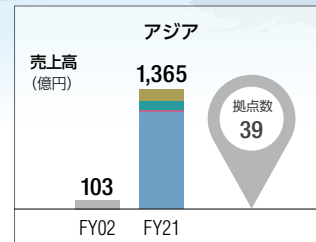
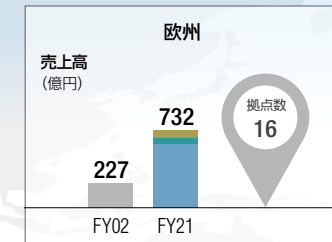
グローバル展開

海外売上高・海外売上高比率

■ 海外売上高 (億円)
■ 海外売上高比率 (%)



■ 高機能プラスチックカンパニー ■ 住宅カンパニー ■ 環境・ライフラインカンパニー ■ メディカル事業 ■ その他



海外売上高地域別割合

